

アマチュア演劇 あきた

20.5.31

No.27

編集・発行
秋田県演劇団体連盟
印刷
(株)ウェブ

A・チエーホフの 「里帰り」

理事長 坂本 好逸



言葉や習慣が違って「人間」の感情表現の一つである

演劇は、役の感情をしっかりとらえて演じれば通じる。それを証明するためにも海外公演の機会を待っていた。

昨年、ロシアのウラジオストクで開催された第五回ウラジオストク・ピエンナーレの誘いに乗ったのはその為でもあった。

チエーホフの作品を能代市出身の「伊賀山昌三」が秋田方言に翻案し、昭和十六年に文学座が長岡輝子演出で初演された「結婚の申込」を上演して来た。

正にチエーホフの「里帰り」となった。

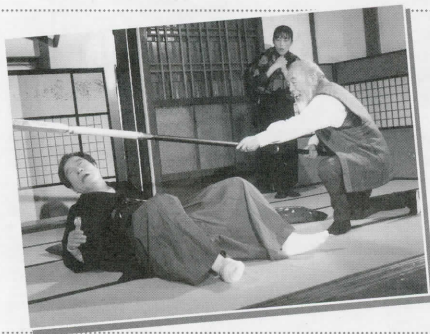
日常的に演劇を楽しんでおられる市民の方々、劇場の芸術監督をはじめスタッフの方々から喝采と歓迎を受けてきた。

ウラジオストクから船で三十分ぐらいに「ルースキー島」がある。(数年後に七カ国首脳会議開催候補地になっているらしい)要塞の島で一九〇一年に建設された堅固な壕が残っていた。

この島で各国から参加した人々の交流会が開かれた。壕をバックに各国の民族衣裳を着けた若者達がダンスや民族楽器の演奏に車座になって手拍子やら、掛け声をかける参加者達の姿は「平和」の尊さを感じさせ、胸が熱く成るのを感じた。

演劇は、自由で平和な社会で健全な発展を遂げたのだ。

思いがけない訃報を知ったのは三月の



事でした。当連盟の顧問で、県高校演劇の指導者として多大な貢献をされた「伊藤哲允先生」が北海道で亡くなられたとの事でした。今年の年賀状を頂いていただけに驚きました。

「演劇セミナーを終えて」

昨年のセミナーは県南ブロックの担当でモデル上演は「劇団Hozzy&Nancy」だった。久々に若手の元気な芝居に巡り会えた。舞台のシンプルな作りも勉強になった。客層の若いものにも目を見張った。そして盛り上がりはその後の酒付きの交流会だ。昔の話で恐縮だが若い頃全国規模の演劇ゼミナールというのがあって年に一度持ち回りで全国各地でやるのだがこれが実に面白かった。老若男女関係なく朝まで酒を片手に語り合っていたのを思い出す。

熱弁で高下駄を二つも重ねたようなしゃべりで世を問う仲間もいたし、中にはどこそこの劇団の可愛い子見たさにはるばる北海道から関西のゼミ会場までやってきた不埒な奴らもいた。今年のセミナーは県北ブロックが担当である。最近参加者が少なくて劇団の代表参加で終わっている感もある。飯を食う環境が悪化する。芝居どころではないよといった劇団を去る人間もいるというから事態は深刻だ。芝居ってやつはどっかバカでないことやっつけいけんところがある。そのバカをこくためのパワーが今の諸事情にちょっと押され気味なのではないか。

モデル上演で示した「劇団Hozzy&Nancy」の様な若いパワーを各劇団の多くの人たちが観られる機会を作ることも連盟の仕事かなと横手の会場を後にした。

(事務局より)

この一年

演劇を楽しむ会

武藤 廣子

創立二〇年近くともなれば、あれやこれやの財産が増え、置く場所に困り、道具類外を思い切った処分、整理をした。(三月末)

そのご苦労さん会での席上、二月の定演「夢見たものは」の話になった。

今年は団塊の世代に焦点を絞りました。主役らしき役どころを配置したせいか、話の筋がまとまった・・・という感想。なかでも、観客を沸かせた遠藤年子と斉藤寿子演ずるめし処女将とスナックママとの対決シーンは、セリフの切れ味もよく見所であったと話が弾んだ。特に遠藤年子については「演劇章を！」の発言も出て、夜更けまで盛り上がった。

八月の朗読公演、十月の映画撮影、十二月の北の演劇祭協力と、忙しい一年であった。

大館市民劇場

保坂 豊

「二〇〇七久しぶりの

若手出張公演から」

師走の定期公演を決め、しばらくの間があることから、久しぶりに若手の出張公演を打つことに相成りました。いくらか木戸銭を取り劇団財政の一助と目論むも、これではまだ取れないだろうとの判断から、結果持ち出し公演となりました。とはいえ、若手は設備のそ

ろつた会館では味

わえない感動を得

たのではとないか

と思ってお

りませ

す。勿論

ベテラン

組も裏方

として楽し

んでお

りました。

さて、定期公演はというと、小

屋の確保ができずに冬の便りが聞

こえる季節となりました。そこで、

両公演ともにお天道様の下の公演

を打ってみました。日曜公演とい

うこともあり、出足はいまいちで

はございましたが、二〇〇七年の



健康館の千秋楽公演となりました。皆は満足至極でございました。

男鹿演劇研究会ふきのとう

鈴木 美子

できる作品、やりたい作品を探し続けてみつからず、今年度も演劇の上演にはいたりませんでした。

「芸文フェスティバル男鹿」での朗読は恒例となり、今回で何度目となったでしょうか。

男鹿の作家による詩の朗読、小説・物語などさまざまな作品を取り上げてきました。

また出演者もそのつど地元の有

志に声を掛け、演劇未経験者にも舞台の経験をしてもらってきました。

今回はベテラン二人で、宮沢賢治の「よだかの星」を朗読しました。

持ち時間が限られているので演劇の上演はできませんが、このような形で、他団体と交流を図ることが出来る、同じ活動が出来ることが

はありがたいことだと思います。

劇団「瀟」

佐々木 孝悦

二〇〇七年七月二十日に第九回定期公演西目姥捨て物語「ラント

台の想い」を上演し、その後二〇〇八年三月には由利地域振興局福祉環境部の依頼により、リサイクル

に関する寸劇・環境忍者「エコ丸兄弟」のビデオ撮影を行いました。

これはリサイクル活動にまつて児童・生徒の理解を深めるため作成したDVDを各小・中学校に

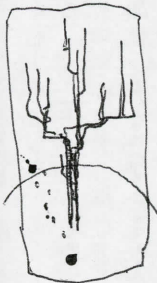
配布することです。それ以外では公民館のイベントでの音響や、

ボランティア活動もしています。

現在第十回目の定期公演に向けて伊賀山昌三原作の「結婚の申し込

み」を脚色し練習を始めています。どんなものになるのかは見て

のお楽しみ・・・というところでしょうか。



劇団能代小劇場

今立 善子

平成三年十二月設立、昭和二十四年能代市にて劇団「市民劇場」

を立ち上げた佐藤長俊を代表に当時のメンバー八人と能代ミュージ

カルからの参加者十二名計二十名が団員です。年間の活動は毎年二

月末日曜日公演の能代ミュージカル、能代ミュージカル・キッズは

今年十五周年になりました。劇団独自の公演活動が制約されてしま

いますが、能代養護学校ミュージカルに地域の先生として参加も

しています。高校生の離能等で若手不足、メンバー高齢化等あります

が、ミュージカルの若手が劇団に参加、二世たちがミュージカル・

キッズに参加等少しずつではあります。前進面もあります。その

時々の持てる力で活動を続けていきたいと思っています。

連盟の皆様のご協力どうぞよろしくお願い致します。

県南ブロックの近況

土谷 久男

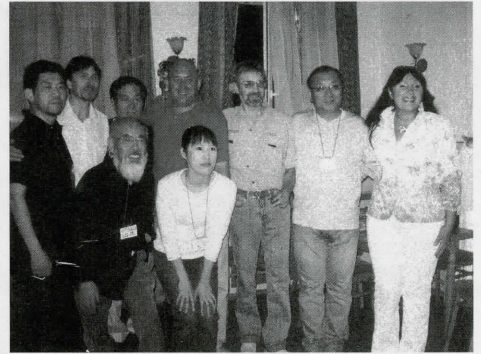
十九年度の県南演劇界は今までにない大きな出来事がありました。

それは、チェーホフの故郷である、ロシア・ウラジオストクでの公演

です。坂本理事長を中心とし、高橋純さん演出。音響照明を担当した

ライテックミュージック谷口社長など豪

おらほの劇団



華メンバーによるユニット「結婚組」を結成されました。増田公演、横手公演を経て、芝居の仕上がりを確認後、ロシア・ウラジオストクに乗り込み、秋田弁による「結婚の申込」を上演、見事成功されました。秋田市での報告公演を御覧になった方もおいでになるでしょう。本当にすばらしい活動だったと感激しました。地元の仲間達にも、さぞ夢や希望をもらった事と思います。本当にお疲れ様でした。

さて、十八年の秋から十九年の四月まで、県南で活動を続ける七劇団により「鳥海劇場」と題し、合併した新横手市の全地域を巡回公演しました。

その後、新町あやめ座（座長後藤 薫）が後藤薫作「ありがとうそして出発」劇団かんじき（代表土谷久男）による川村光夫作「めくらぶんど」を上演、さらに秋田県演劇セミナーのモデル上演として

て、劇団ホーシ&ナンシーの創立五周年に併せて、万歳作「鯛」を上演しました。これらは各劇団が中心となり、他劇団から役者、或いはスタッフとして関わってもらい上演したものです。

ベテラン俳優から新人俳優まで様々な立場の人が稽古場で、たまには議論しながら、たまには対立しながら、やがて同じ方向に進む形が、ようやく取れるようになってきた気がします。

それぞれの劇団が今年も何か企んでいるようです。お客様を第一にした芝居作りをめざし、県南演劇が、また動きだします。

劇団はちのす

加藤 正志

昨年度は、十月に第十四回公演「裏切り御免！」（作・成田豊・真柴あずき）を秋田市文化会館にて上演しました。殺陣のある時代劇もこれで三回目となり手馴れてきた感もありましたが、公演四週間前にメイン役者が足の骨を折るトラブルに見舞われ、毎度の事ながら息をつく暇もない程のスケジュールに奔走した一ヶ月でした。

四月に同会場にて、劇団としては初めての創作台本となる第十五回公演「哀粧」（作・加藤正志）に挑戦しました。公演一ヶ月前にメイン役者が転動となったり、台本が公演の二週間前に完成するとい

った筆の遅さが発覚したり、上演四時間前に芝居用の拳銃が壊れるといった怪現象に見舞われましたが、無事に終演し、次回公演からはお清めしてから公演を打とうと決心した公演となりました。

たかのす劇団

成田豊人

二〇〇七年度は我が劇団にとっては創立十五周年の節目の年であった。

十月六日に予定されていた第十六回定期公演「ふるさとの歌」（限界集落がテーマ）の成功に向け、例年通り五月の連休明けから稽古を再会、一名の新人も迎え順調な滑り出しであった。結果的に水害や国体開催などという客の入りに対するバリアーはあったが、根強いファンに支えられ、公演は成功裡に終わった。

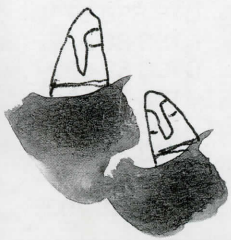
翌月には市教育委員会から要請され、阿仁公民館において、この年二回目の公演を行った。公民館での公演は始めての経験であり、舞台装置の設置などで苦勞もあつたが、県内で最も過疎化が進んでいる地位での公演は意義のあるものであり、我々にとっても得るものは大きかった。

展楽座

工藤 慶悦

昨年はのんびりしすぎました。通常展楽座の公演は秋口が定番なんです。会館のリニューアル公演という事で春先に演つてしまいましたが、随分と空気が多い一年となりました。ま、それでも夏の最中、葬祭センターより公演依頼が掛かり、芝居の他、歌や踊り有りのバラエティショーをやつてのけました。

只今は秋の新作公演に向けてスタートしましたところ。一年前たまたま涙がチョチョ切れるような小説（NHK出版もう一度会いたい）に出会い、勝手に脚色して出版社に送つたところ運良く上演許可が下りたというわけです。最近の展楽座はパクリの劇団と呼称されておりますが、座付き作家がない劇団ゆえの手法でもあります。西馬音内の盆踊りやクロス役をこれまた勝手に加えたりして書く分には楽しんできましたが、さて本番へ向けて何をどうしたらいいものかと目下案じてるところです。今年もこだわらずに東京弁でいきます。な、何？展楽座はどうやつてもなまってるって？た、たしかに……。



平成十九年度

秋田県演劇団体連盟

演劇章

大館市民劇場

横手アマチュア演劇研究所

演劇功労賞

男鹿演劇研究会ふきのとう

鈴木 美子

小林 重信

高橋 貢

おめでとうございます

事務局 だより

演劇を楽しむ会

■出前公演（広域交流センター）

平成十九年八月十日

朗読「戦没者慰霊朗読」

■小公演（ミッドラザ）

平成十九年八月十四日

朗読「戦争と暮らし」

作・演出 遠藤浩一 高木豊平

■映画「のり」となかにまこと

撮影に協力（有志）

平成十九年十月十一日（土）

■第十七回定期公演（花輪市民センター）

平成二十年一月十二日（土）

「夢みたまのは」 作・演出 高木豊平

ありがとうございます

鈴木 美子

平成十三年に連盟の事務局次長という大任をお引き受けして、気がつけばもう七年もの月日が過ぎてしまいました。至らないことばかりで、坂本理事長始め皆様にはご迷惑のかけっ放しだったと思います。事務局長をサポートするのが主な仕事かと思いますが、サポートできていたかどうかは、かなり怪しいところです。

任期中の最大の仕事は、連盟の三十五周年記念事業ではなかったでしょうか。この行事を通して今までとは違った団体同士の、また、人と人との絆が深まったような気がします。その事業に携わることには大きな経験となり、また大きな思い出となりました。今回劇団の事情から連盟を離れることとなりましたが、ここで培った縁は今後も大切にしていきたいと思っています。有難うございました。

大館市民劇場

■第二十一回定期公演

平成十九年十一月九日（日）

（大館市民文化会館）

平成十九年十一月十六日（日）

「憂き世 安達ヶ原商店会」

作・演出 保坂 豊

■出張公演

平成十九年七月七日（土）

（大館市野井沢福祉園）

平成十九年七月十日（火）

（大館市田代総合福祉センター）

「結婚の申込み」

作 チェーホフ

翻訳 伊賀山昌三

演出 小林 重信

劇団「瀟」

■第九回定期公演

平成十九年七月二十日

西目姥捨て物語「三ツ台の想い」

作 小田切たかし 演出 佐々木孝悦

■第三十二回文藝チャリティーショー

（西貝公民館シールカ）

平成十九年十一月二日

寸劇「家族 パート八」を上演

作 小田切たかし 演出 佐々木孝悦

平成二十年三月三日

由利地域振興局環境部の依頼により

環境忍者「二ノ丸兄妹」のビデオ撮影

能代小劇場

■平成十九年八月二十六日

能代ミュージカルキッズ

■第七回松浦物語まつりとして参加

平成十九年十月十六日

能代養護学校ミュージカルに地域の先生として参加

平成十九年七月五日

二ツ井町旧福祉会館にて

自主公演「鬼の面」

平成二十年一月二十四日

能代ミュージカル

能代物語第七話「能代夕焼け物語

キャスト・スタッフとして参加

劇団はちのす

■平成十八年十月（秋田市文化会館）

十四回公演「裏切り御免！」

作 成井豊 演出 真柴あずき

たかのす劇団

■ふるさとの歌 作・演出 三澤守

平成十九年十月六日

（於 北秋田市文化会館）

平成十九年十一月十日

（於 北秋田市阿仁公民館）

■第十七回定期公演

「みあつて 見合つて」作・演出 三澤守

平成十九年十一月十日

（於 北秋田市文化会館）

展覧座

■第十七回定期公演（二ツ井町福祉会館）

「煙が目に染る」

平成十九年五月十八日

■依頼公演「藝祭センター」周年記念公演

「展覧座パラディエーション」

※奥南ブロックの各劇団報告は、2Pの

近況報告をご覧ください。

編集後記

事務局次長の鈴木美子さんが退会されるといふ。誠に残念である。名ばかりの事務局長を勤めてる私からすれば、彼女こそその事務局長にふさわしいと考えていた矢先の出来事だったからなおさらである。鈴木さんの人一倍頑張ってくれた労にあらためて感謝を申し上げたい。本当にご苦労様でした。

（事務局長）

秋田県演劇団体連盟・加盟団体名簿

| | | | | |
|---------------|-------|-----------|---------------------------------|---------------|
| 演劇グループ十一人の会 | 伊藤 三喜 | 〒016-0132 | 能代市宇町後69 | 0185-58-4619 |
| 演劇集団すかんぼ | 小野 健爾 | 〒010-0005 | 秋田市東通明田3-28 | 018-834-0563 |
| 演劇を楽しむ会 | 武藤 廣子 | 〒018-5201 | 鹿角市花輪字上花輪46 | 0186-23-6545 |
| 大館市民劇場 | 小林 重信 | 〒018-5732 | 大館市比内町谷地中宇矢地中90-1(小林) | 0186-49-6366 |
| 男鹿演劇研究会ふきのとう | 松橋 義弘 | 〒010-0502 | 男鹿市船川港比話羽立15 | 0185-24-4204 |
| 劇団「瀟」 | 佐々木孝悦 | 〒018-0602 | 由利本荘市西目町出戸字浜山3-219 | 0184-33-2027 |
| 劇団能代小劇場 | 伊藤 洋文 | 〒016-0891 | 能代市西通町16-5 | 0185-52-6739 |
| シアター・ル・フォコンブル | 富橋 信孝 | 〒010-1434 | 秋田市仁井田落見町3-17 | 018-839-5716 |
| 新企画舎 | 嶋田 修 | 〒013-0037 | 横手市前郷二番町2-23 | 0182-32-6272 |
| たかのす劇団 | 三澤 守一 | 〒018-3301 | 事務局/北秋田市材木町11-29(成田豊人) | 0186-62-9271 |
| 展覧座 | 工藤 慶悦 | 〒018-3115 | 能代市二ツ井町海道上70 | 0185-73-5602 |
| 横手アマチュア演劇研究所 | 坂本 好逸 | 〒013-0004 | 横手市明永町11-58 | 0182-32-1110 |
| 横手演劇研究会 | 佐藤 竹利 | 〒013-0055 | 横手市上内町5-5(吉成祐子) | 0182-33-4993 |
| 劇団HOZZY&NANCY | 平田 孝太 | 〒013-0061 | 横手市横手町二の口69-1 フィオーレI 103 | 0182-36-3341 |
| 劇団はちのす | 加藤 正志 | 〒010-1435 | 秋田市仁井田湯中町1-44 インサイドヴィレッジ大住B-102 | 090-4318-7035 |